



読書界 2月号

テーマ 「食べものが出てくる本」

『かくりよの宿飯』 友麻碧 富士見L文庫

小さい頃から妖怪“あやかし”が見える葵は、ある日、鬼に攫われてあやかしの住む世界「隠世」に連れて来られる。あやかしにとって人間の娘は、喉から手が出るほど欲しい存在。葵は、あやかしへの対抗手段として、宿の食事処「夕顔」で得意な料理を振る舞う。和風オムライスのような作ってみたくなる料理がたくさん出てきます。

1年女子

『ヤッさん』 原 宏一 双葉社

若くして都会の公園で寝起きする身になったタカオが、なぜだか食に精通しているホームレスの「ヤッさん」と出会い物語がスタートします。タカオの出会ったヤッさんは食に精通しているだけではなく、築地市場でも銀座の高級料理店でも一目置かれる存在だった。「美味しい食べ物と人間がすき」ということ以外、何も分からない謎だらけのヤッさんは、時には料理人を叱り飛ばし、食の世界に起きる様々な事件の解決に奔走します。そんな豪快な背中を追いかけて、色んな事件にもまれながら成長していくタカオ。そして弟子入りしたタカオにも成長を問われる試練が待ち受けていた。そんなユーモアあふれるヒューマンストーリーになっています。

1年男子

『給食のおにいさん』 遠藤彩見 幻冬舎文庫

誰もが食べたことのある給食にまつわる話。コンクールで優勝するほどの腕を持つ主人公の佐々目は、給食調理くらい簡単なことだと思っていたが、実際に働いてみると安全性や予算、残飯率など厳しい現実を知る。しかしそんな中でも、子どもたちにもっとおいしい給食を食べてほしいという思いから、野菜を食べやすいように調理したり、子どもたちの興味をひくようなメニューを開発したりと、奮闘する佐々目の姿に心打たれる。この本を読めば、今までに食べた給食が恋しくなること間違いなし！

2年女子

『さばかない・おろさない！魚のおかず90』 ベターホーム協会

皆さんは魚料理が好きだろうか。私は好きである。そういうワケで、おすすめ魚料理のレシピ本を紹介したいと思う。冬といえば、タラ、タイ、ブリ、カレイをはじめとした、冷たい水に生息する魚が旬である。今回紹介するこの本では、魚をさばいたり、おろしたりせずにおいしく食べる方法が紹介されている。思いついてすぐにパッと作れるようなレシピもたくさん。余ってしまった切身を活かすポイントも掲載されている。冬は寒くて魚の調理なんてやってられない、そんな皆さんもこの本を手にも、旬の魚に挑戦してはいかがだろうか。

2年女子